

ひだまり

発行所
聖和福祉会
 〒519-2211
 三重県多気郡
 多気町丹生4701
 TEL 0598-46-3115
 FAX 0598-46-3783

六月十九日に三重県知的障害者福祉協会の施設長会議がありました。会議にご臨席いただいた三重県障がい福祉課長の森下宏也様から、県内の入所施設の待機者が多いということから、県議会に新たに入所施設建設を求めた請願が採択されたということと、県としては入所施設の利用者様の意見を聞いて判断していくという内容の話がありました。この件につきましては、三施設連の研修会でも話題になり、聖愛園の保護者の皆様もこの請願に協力していくという姿勢をとられました。

社会の流れは、施設から地域へということになっていくなかで、今の時期にどうしたことかと思いましたが、現実として施設入所の待機者が四百名以上あることの解決を図らなければなりません。

請願をしたのは、利用者様ではなく保護者ですので、利用者様の意見を聞くということは大事ですが、どれだけの利用者様から意見を聞くことができるかという問題もあります。

聖愛園の高齢化をむかえた利用者様の現状を考える時に、入所施設の生活介護という制度だけでは、限界を感じています。

地域移行という流れは絶対に止めてはなりません、障害のある利用者様の

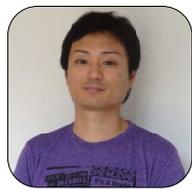


社会福祉法人 聖和福祉会
 常務理事
 聖愛園施設長
 戸野和雄

の高齢化対策も急務です。施設建設の請願を県議会が採択したのですから、厚労省とよく協議され、高齢化対策を兼ね備えた施設を三重県が全国に先駆けて建設されるように願っております。

質の高い支援を目指して

聖愛園では、現在短期入所も含め四十二名の方が日々の生活を送っております。その利用者の直接支援をするのが生活支援員であります。生活支援員の仕事にとって非常に大切になることは、毎日の決まった事を、どれだけ質の高いものにできるかでないかと思っております。例えば、入所施設では、入浴や排泄、食事介助といったある一定のルーチン化された仕事があります。このルーチン化されたことをどれだけ丁寧にかつ利用者の方に向き合った質の高い支援にできるかが、支援の質を上げる一つの要素ではないかと思っております。毎日同じ業務の内容であっても、利用者さんの「毎日」は一日一日違います。ルーチン化された仕事の中で、個々に応じた、その場その場の適切、丁寧な支援がどこまで出来るかが職員の見えるところではないかと思っております。少しずつではありますが、支援の質も向上していることを感じております。今年も介護福祉士の資格を取得した職員が数名おります。高い知識・技術はもちろんです、高い「意識」を持つように職員には今後指導して参りたいと思っております。



聖和福祉会
 統括支援部長
 弓木 昭人

サニースレイス

- ☆提供サービス：生活介護・日中一時
- ☆定員：20名
- ☆利用時間：AM10:00~PM3:00
(送迎時間を除く)



住所：松阪市山室町2580
 TEL：0598-30-5585 FAX：0598-30-5586

- ☆主な活動☆
- 調理活動・農園活動・音楽活動
 - 陶芸活動・スキルアップ
 - 一日外出

祝日も開所しています！ (年末年始除く)

聖愛園 第16回 夏祭り



七月十三日(廿)、第十六回夏祭りが開催されました。今年は何年別々で行っていた「流しそうめん」と「夏祭り」を同じ日に行いました。初の試みだったので、職員一同入念に打ち合わせをして本番にのぞみました。

最初に利用者さんのハーモニカ演奏、普段の練習の成果を披露されて、とてもきれいな音色を奏でられていました。続いて、ボランティアさんによる琴の演奏、和の心がうっしだされる様な、すばらしい演奏でした。そして、昼食時みんなで「流しそうめん」を頂きました。みなさんたくさん召し上がられ、大盛況でした。

午後は、毎年恒例となっている神輿の登場でスタートして一気にお祭りモード全開になりました。

この日のために毎日練習した踊りを披露され、満足された笑顔がとても印象的でした。続いて、利用者さんによる「ダンス」！軽やかなステップと動きでみなさんの視線を釘づけにし、見事に最後まで踊りました。それから、ボランティアさんによる二胡の演奏が始まりました。まさに中国の風景が頭の中に描かれる様な素晴らしい音色でみなさん、聞き入っていました。休憩をはさんで、最後に勢和いきいき保存会の方々と盆踊りを踊り大いに盛り上がり、第十六回夏祭りを締めくくりました。

忙しい中、夏祭りに参加してくださった保護者の皆様とボランティアの皆様、誠にありがとうございました。

聖愛園 生活支援員 島田聡

あじさいまつり

六月八日、第十八回大師の里、彦左衛門のあじさいまつりに参加しました。聖愛園は、かき氷・ジュース・ジャガバター、保護者会ではフリーマーケット・さんま寿司を販売しました。

当日は、お天気にも恵まれ蒸し暑いほどでした。聖愛園名物！かき氷を求めのお客様で大行列ができていました。お昼過ぎには氷がなくなり、あつという間に完売となりました。



紀伊長島直送のさんま寿司やホクホクジャガバターも大好評で聖愛園ブースは大盛況でした。利用者さんも遊びにきてくれて、かき氷を食べさせて頂きました。

に参加し、地域との交流もでき貴重な時間でした。これからも地域活動に積極的に参加して、地域との交流をしていきたいです。協力して頂いた保護者のみなさん、担当職員のみなさんお疲れ様でした。

聖愛園 生活支援員

南坂 綾香



音楽活動について

四月より毎週月曜から金曜まで音楽を取り入れた活動を行っています。季節を感じる歌を唄ったり、手遊びをしたり、簡単な楽器タンバリン・すずなどを使って音を楽しんだりしています。また、普段はあまり身体を動かさない方が音楽に合わせて自然に身体を動かす姿が見られると嬉しい気持ちになります。

音楽を通し利用者様と職員とのコミュニケーションをはかり明るく・楽しく・元気に参加できる雰囲気心掛けていきます。

聖愛園 支援主任

藤村 里香



『パタカラ体操』

パ・パ・パ・パ・タタタタタタ... 聖愛園では、食事の前にパタカラ体操を実施しています。

パタカラ体操とは、食事に必要な舌や唇、その周りの筋肉が鍛えられる「パタカラ」を発音することで噛む力や飲み込む力の衰えを予防する体操のことです。食事は大切な楽しみのひとつです。美味しく食事して頂けるよう毎日続けていきたいと思っております。

聖愛園 支援主任

藤村 里香





サニープレイスだより



去る二月二十二日、生活介護事業所サニープレイスの竣工式典が執り行われ、多くの皆様にご臨席賜りましたことにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。当初は四月一日の開所を予定していましたが、新事業所のオープンという不慣れなことでの諸手続きに時間がかかってしまい、一ヶ月遅れの五月一日無事開所に至った次第です。

開所から二ヶ月あまりが経ち、毎日の活動の骨組みも固まりつつあります。調理や創作などの屋内活動、体力づくりや農園作業などの屋外活動、一日外出など、利用者の方には多くの活動に参加していただいています。



サニープレイスの方針として、皆様にはまず楽しく活動に参加していただく事を第一に考えています。季節に応じた「今しか出来ないこと」を積極的に活動に取り入れ、利用者の皆様と共に、四季を感じながら楽しい毎日をつくっていきたくと思っています。そして、その中でお一人おひとりの解決すべき課題を見つけ、その解決に真剣に取り組んでいきたいと考えています。

職員数の問題もあり、現在は頂戴している全てのご要望にお応えすることが出来ずご迷惑をお掛けしているところもあるかと思いますが、職員一同、精一杯頑張っている所存ですので、これからもサニープレイスを宜しくお願致します。

サニープレイス 副施設長

戸野歩

五月一日開所！

サニープレイス日中活動について



生活介護事業所サニープレイスが五月一日に開所しました。ここでは、利用して頂ける方々に合わせ、畑での農作業やプランタ等への花の植え付け、お菓子作りなどの調理活動や音楽に触れる機会や体力作りのための中部台公園等のウォーキングコースを利用した活動を行っています。また、六月より陶芸への取り組みも始めています。その他日常の活動としては、手作りで行うことにご協力、手作りハンコでのカレンダー作りに取り組みました。今後、自然の物を使った染物体験や、芸術祭等作品展に向けての作品作りも始めています。

さらに、生活スキルの向上を目指した活動も取り入れていきたいと考えており、手紙を書いたり、自分で買いたい物ができる事を目標にした活動「スキルアップタイム」も行っています。

自然があふれ、街中にも関わらず閑静なサニープレイスの中で、利用される方の生活が豊かになるよう、一生懸命取り組んでいきます。

サニープレイス サービス管理責任者

鎌倉 喜昭



職員の声

私はサニープレイスに勤めて、初めて福祉の仕事に携わりました。学生時代に一度、福祉の分野に興味を持ちました。その後、福祉とは関わりのない仕事をしていたのですが、今回縁があり働かせて頂くことになりました。

最初は不安や戸惑いが多く、利用者の方への接し方が分からなかったり、注意すべき点を見逃していたりと自分の力不足を痛感することばかりでした。生活介護事業所というところが利用者の方へのどのような支援をしていくべきなのか二ヶ月働いてようやく少し理解することができました。まだまだ、勉強不足なところが多く、周りの先輩方に助けられてる毎日です。

サニープレイスも開所して二ヶ月が経ち、日々の活動も定着してきました。中には、利用者の方が苦手な活動もあります。それをいかにして楽しんで頂けるか、またその活動がどのような支援に繋がっていくかを考え、利用者の方の今後の方向性を広げていくとともに、自分自身も精進していきたくと思っています。



サニープレイス 生活支援員

野呂 真奈巳



寿司パーティーと年間の取組み

去る二月九日、松阪市の『すし正』さんを握り手にお招きし、『第三回 聖愛園寿司パーティー』を盛大に開催致しました。今年も、もちろん目玉は養殖本マグロ！普段のお食事では、なかなか生ものを提供できませんが、握りたてのお寿司に“美味しい・美味しい”と、利用者の皆さんの顔がほころびっぱなしでした。人は、美味しいものを口にした時、自然と笑顔になるんですね。



さて、私の今年度の取組みと致しまして、利用者様の栄養管理・健康管理を中心に、『つながり』をより大切にしていきたいと考えております。『利用者様とのつながり』 『保護者の皆様とのつながり』 『職員同士のつながり』 『地域とのつながり』 この『つながり』を利用者様の支援に繋げていけたら、もっともっと幅の広い、また奥深いものになるのではないかと思います。



聖愛園 栄養士 羽根めぐみ



医務室便り

水虫のお話し



これからの季節、気になりはじめるのが水虫です。去年、治ったはずなのに・・・と、悩んでみえる方も多いのではないのでしょうか。水虫の原因は、カビの一種で白癬菌に感染する事により、発症します。日本人の五人に一人が水虫にかかっているとも言われています。

*水虫の種類と治療法

一、小水泡型・・・足の裏や側面に小さな水ぶくれが出来、痒みが強く、それがつぶれて皮膚が剥ける。↓軟膏・クリーム治療

二、趾間型・・・指と指の間に来る。

①ただれ・じゅくじゅくの場合↓軟膏治療

②ガサガサ↓液体スプレー治療

三、角質増殖型・・・かかと部分を中心に足の裏が、カサカサになってしわが深くなり、日がたつと表皮が剥がれてくる↓軟膏・クリーム治療

どのタイプの水虫でも、足を毎日清潔に保ち、治療を続けることが大切です。治ったように見えても、皮膚の奥深くで白癬菌は生きていますので、皮膚がきれいになってから、三ヶ月は薬を塗り続けましょう。

聖愛園においても、数名の利用者様が水虫を発症していますので、根気強く治療を続けていきたいと思えます。

看護師 木下明美

御厚情深く御礼申し上げます

自平成二十六年一月十六日
至平成二十六年七月十五日

ご芳志ご芳名 敬称省略)

保護者会・大谷勲・中川和子
アスカ総合設計・朝田早織

物品寄付ご芳名 敬称省略)

竹原靖志・加藤八洲和・神廣かよ
馬野悦夫・早崎喜代子・水谷英男
西村郁三・大谷勲・岩城央生
森田知恵子・中川和子・中野智恵子
丹生大師・グリーンプラザ
こいしろの里・アンサーロックサービス
たんぼぼ・三重義肢・㈱マルエイ
とみやま外科内科医院・㈱トモ・博進堂
山口工務店・三重リコピー
庄司保険事務所
左右田周子・深瀬様・高塚様
他にも匿名で品物を頂戴しております。(

機関紙ひだまり第四十号を発行させていただきます。ご一読いただければ幸いです。宜しければ聖愛園と、サニープレイスのブログ☆活動日記☆もご覧下さい。

<http://seiaien.exblog.jp/>

<http://sunnyseiwa.exblog.jp/>

編集

サニープレイス

打田有美

